

## 2023年2月度の観察記録

カテゴリ : 2023年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2023-2-12

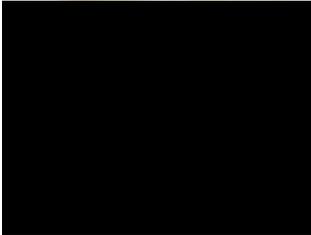
2023年2月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2023年2月12日(日) 9:30~12:10 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子  
写真協力: 伊藤義人氏

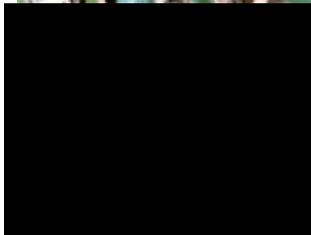
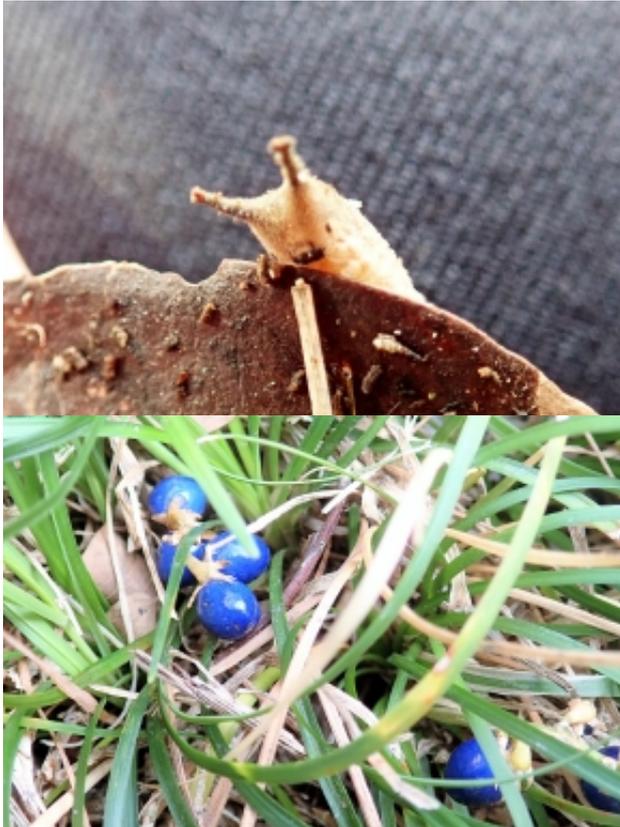
参加者: 大人24名, 子ども29名 天気: 曇りのち晴れ 2月の観察会は本来最も寒さの厳しい時期に当たるのですが、この日名古屋の最高気温は18℃、例年の気温を大きく上回りました。動植物の動きの少ない季節ですが元気な子どもたちと一緒に生きもの探しを楽しみました。

里山の家での持ち込み観察項目: ムネアカハラビロカマキリの卵鞘, 平和公園の昆虫の標本箱, 冬越し中のキノカワガの写真, クロスジホソサジヨコバイの写真? オタマジャクシ池カガエルが産卵を始めたと聞き、見に行くことにしました。オタマジャクシ池の上方の池も含めてたくさんのお卵が見られました。卵塊の数を数えると、中段だけで18個も見つかり、用意したプラスチックの容器に入れて観察しました。





ニホンアカガエルの卵塊  
池のそばのエノキの根元を歩くとヨウの幼虫探しが始まりました。落ち葉の裏で冬越しをしている幼虫が複数見つかりました。またすぐ脇のジャノヒゲをかき分けて、光沢の強い青い実をつけているのを観察しました。



ゴマダラチョウの幼虫 ジャノヒゲ  
中道を進み、道沿いのツツジの仲間の新芽を観察しました。  
モチツツジの葉には毛が多く葉先は丸みがかっていましたが、ヤマツツジの方は毛が少なく光沢を帯びていて葉先がとがっていました。コバノミツバツツジはまだ芽吹いていませんでした。



モチツツジの新芽 ヤマツツジの新芽  
者がいました。クロウリハムシは夏にはカラスウリの葉でよく見かけます。成虫で冬越しするとの  
ことでした。

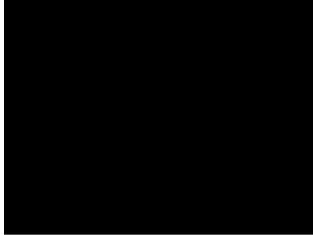
アベマキの樹皮**クロウリハムシ**を見つけた参加



クロウリハムシ アベマキの木の下にはドングリがたくさん落ちていて、中には根を出しているものもありました。畑の脇のソシンロウバイは今年もたくさん花をつけていい香りを放っていました。

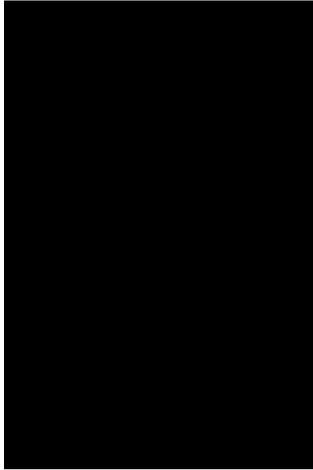


根を出したアベマキのドングリ ソシンロウバイ 水路に水網を持った参加者の子どもたちが集まって、水の中の生きもの探しをしていました。つどいの丘には紅白のウメがありすが、コウバイの方はすでに満開でしたがハクバイはまだちらほらとほころび始めた花が見られる程度でした。

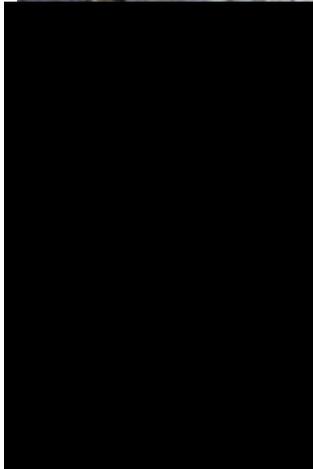


水路で生きもの探し コウバイ つどいの丘を横切って湿地の方へ降りると、水たまりでアメンボが動いていました。参加者の大学生が持参の容器で捕らえると、シマアメンボと分かりました。夏の間によく見かけるアメンボのイメージと違って体形は丸みを帯びて、翅がありませんでした。通常のアメンボは無翅型なのだそうです。模様をよく見るとシマではなく印象的な幾何学模様のような模様でした。





シマアメンボ 里の道では**在来種のカマキリの卵鞘**が2個続けて見つかりました。先月は外来種ムネアカハラビロカマキリの卵鞘ばかり見つかり心配しましたが、在来種の卵鞘が複数見つかったのは嬉しいことでした。昆虫に詳しい参加者が、この2種のカマキリの産卵場所について、太い幹に産みつけられているのは在来種の卵鞘であると教えてくれました。



ハラビロカマキリの卵鞘 湿地から里の道に抜ける雑木林沿いの足元には、シダの仲間がたくさん見られました。**ハナワラビの仲間**は前にもこの場所で孢子嚢を観察しました。**ベニシダ**と教えられたシダの葉裏には小さな丸い粒状の孢子嚢が規則正しく並び、**トラノオシダ**の孢子嚢は大きめの円型でした。



ハナワラビの仲間 ベニシダ トラノオシダ

カゲノカズラを次々と観察し、シダの仲間の孢子囊の形やつき方はそれぞれで、葉の裏につくもの

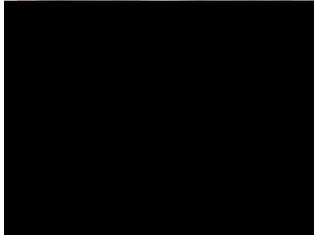
だけではなく穂状になって伸びるものがあるという話が出ました。

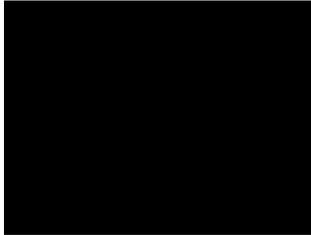
そのほかイモトソウ、ヒ



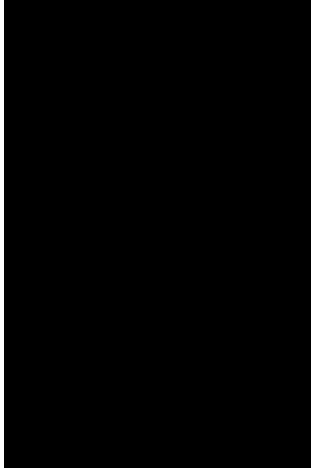


ヤブソテツの仲間 イノモトソウ ヒカゲノカズラ **去年の夏**を観察した場所には、種の入った鞘が枯れたまま残っていました。種の形は六面体に近く、ロッカクソウとの別名もあるようです。この観察会でエビスグサはハブ茶の原料であると何度か耳にしてきましたが、調べてみるとこの種子を炒ったものを煮出して作ることがわかりました。





エビスグサの種 近くのシンジュキノカワガの繭がついているのを見つけました。シンジュキノカワガは南方系ので、今のところ名古屋の気温下では冬越しできないと言われています。この繭は成虫が出た形跡がなかったので、中を調べてみることにしました。参加者の青年が繭をはがすと、中から蛹が出て来ました。すでに死んでしまった蛹でしたが、よく見ると特徴的な翅の模様が透けて見え、羽化間近であったことがうかがわれました。



シンジュキノカワガの蛹 ノイバラは早くも新芽から若葉が伸び始めていて、周囲の冬景色の中でひときわみずみずしく映りました。近くのサクラの幹にシロフユエダシャクのオスがとまっているのを見つけた参加者がいました。このガは冬越しをしているのではなく、冬に活動する仲間です。





ノイバラの新芽 シロフフユエダシャク

大学生の参加者が、倒木から黒光りする幼虫を探し出しました。ゴミムシの仲間とのことでした。最後にガガイモの実を観察すると、中にはたくさんの種がびっしりと、そして整然と並んでいました。子どもたちが種を取り出すと、やわらかで毛足の長い綿毛が広がりました。

大学生の参加者が、倒木から黒光りする幼虫を探し出





ゴミムシの仲間の幼虫 ガガイモの実 気温が高い上にほとんど風が吹かず、子どもたちの中には上着を脱いで走り回る子もいました。春はもうすぐそこまで来ているようです。

平和公園での観察項目：ドロバチの巣, センダン, ニホンアカガエルの卵塊, コモリグモの仲間, ゴマダラチョウの幼虫, クサギカメムシ, イセノナミマイマイ, ジャノヒゲ, エノキの虫こぶ, ツチイナゴ, タラヨウ, クコ, クロウリハムシ, ムネアカハラビロカマキリの卵鞘, オオイヌノフグリ, モチツツジの花芽, ヤマツツジの花芽, アベマキの実生, ネジキの冬芽, コバノミツバツツジの種, ソシンロウバイ, ナナホシテントウ, コウバイ, ハクバイ, ヌマエビ, シマアメンボ, ハナワラビの仲間, ベニシダ, トラノオシダ, ヤブソテツの仲間, イノモトソウ, ヒカゲノカズラ, ハラビロカマキリの卵鞘, シンジュキノカワガの繭, シンジュキノカワガの蛹, エビスグサの種, サラサウツギ, ニシキギ, マメガキ, ノイバラ, シロフフユエダシャク, ゴミムシの仲間の幼虫, ガガイモの実